

THE SERVICE CLUB OF Y.M.C.A. THE Y'S MEN'S CLUB OF KOFU 21

編集長 野々垣和宏

2024年3月5日(火) 発行

KOFU21

Chartered 1990
甲府21ワイズメンズクラブ



〒400-0032 山梨県甲府市中央3丁目10-7
山梨YMCAグローバルコミュニティセンター
☎055-235-8543 fax055-235-8553
Mail kofu21@googlegroups.com

国際会長	ウルリック・ラウリドセン(デンマーク)	「輝かそう、あなたの光を」
アジア太平洋地域会長	利根川恵子(川越)	「変革のための光となろう」
東日本区理事	山田公平(宇都宮)	「未来のために今、学びと気づきを！ 未来のために、自信を育み、真の喜びに出合う！」
あずさ部部长	森本俊子(長野)	「よい結果をもたらす心の安定と考える力」
甲府21クラブ会長	小澤公紀	「みんな一緒に、1つの目標(YMCAの支援)に向かって行動しよう」

甲府21ワイズメンズクラブ
2024年3月会報

今月の強調テーマ
CS・グリーンP
ワイズメネット

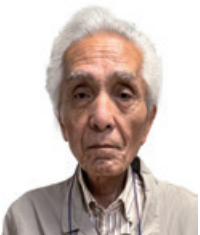
【今月の聖句】 ミカ書 6：8

選者：清藤 城宏

人よ、何が善であり 主が何をあなたに求めておられるかは あなたに告げられている。正義を行い、慈しみを愛し へりくだって神と共に歩むこと、これである。

3月 巻頭言

会長 小澤公紀



新年早々よりの異様なスタートを切った令和5年も早2ヶ月を過ぎ、日々の生活も又精神的にも、ようやく通常の生活に戻りつつある感じのする今日この頃です。

さて、去る2/10 あずさ部評議会が「八王子わくわくビレッジ」にて開催されました。今回の主たる討議は「あずさ部部長の選任方法は現在の各クラブ順送りのままで良いのか」との意見交換でした。様々な意見が出され本部で調整し、何らかの選任基準を検討することとなりましたが、根本はクラブ員の減少及び高齢化にあります。会員数の増加を更に進めることが唯一の解決策であり、又最も難しい課題でもあります。

先日、本年度の山梨YMCAの重点実施事業である「銀河鉄道の森」プロジェクトのワークキャンプのお手伝いに当クラブ9名皆さんと行ってきました。

参加者は、手作りキャンプ場の整備に汗かくユースを中心とし、私たち甲府21メンバーは昼食づくり(なんとカツカレー+焼き芋!)のお手伝いで、総勢約21名の参加を得て、好天のもと大変楽しく有意義な時間を持つことができました。正にユースとの「年齢を超えた仲間」としての協働事業の実践であり、お互いを知りあう良い機会であったと思います。本事業は今後も続きます。皆様の積極的な参加を期待いたします。

又、2月第一例会にてミャンマーとインドネシアから来日中の「PHD 協会留学生」2人を招き、日本滞在の感想とお国の事情等お話をいただきました。過酷な日常の中での自国への思いと、個人として出来ることに邁進している2人の姿に感動を覚えました。翌日の有志による激励の食事会等を経て帰国の途へ着きましたが、このような機会がユースの皆さんと一緒に持てた事で、支援の在り方も含め私たちの目がほんの少し、世界に広がった感じがしました。

今月の卓話は「フードバンク山梨」で「食品ロスを福祉に役立てる」を日本のリーダーとして実践している米山理事長を招き、その意義と苦勞の思いをお話いただきます。

3月第一例会プログラム

2024年3月5日(火) 19:00～

会場：山梨YMCA3階大澤英二記念ホール「ベテル」

司会 溝口秀男ワイズ

- | | |
|---|----------|
| 1. 開会点鐘 | 小澤公紀会長 |
| 2. ワイズソング・ワイズの信条 | |
| 3. 聖句・一言 | 清藤城宏ワイズ |
| 4. 会長挨拶、ゲスト紹介 | 小澤公紀会長 |
| 5. 会員卓話 | 水越正高ワイズ |
| 6. ハッピーバースデー | |
| 7. ワイズディナー | |
| 8. ゲスト卓話 フードバンク山梨 | 米山けい子理事長 |
| 「フードバンク山梨の活動から見える子供の貧困」
～誰もが食を分かち合える社会へ～ | |
| 9. YMCA 報告、諸報告 | |
| 10. YMCA の歌 | |
| 11. 閉会点鐘 | 小澤公紀会長 |

《3月の誕生者》 Happy Birthday!

〈メン〉

松村 豪夫 (2日)

〈メネット〉

葉袋けさみ (31日)

[敬称略]

本日の卓話 米山けい子さんプロフィール



認定NPO法人フードバンク山梨 理事長
元全国フードバンク推進協議会 代表
消費者庁食品ロス削減推進会議委員
中央市子どもの貧困対策推進会議委員

略歴

2008年7月 生活協同組合パルシステム山梨理事長を退任
2008年 10月 フードバンク山梨を設立
2010年 11月 行政との協働による「食のセーフティネット事業」を開始
2015年 8月 全国初の「フードバンクこども支援プロジェクト」を開始
2015年 11月 全国フードバンク推進協議会代表に就任
2016年5月 「子どもの貧困対策連携協定」を自治体と締結。学校との連携による「フードバンクこども支援プロジェクト」を開始
2018年 10月 全国初の「乳幼児応援プロジェクト」を開始
2020年 3月 子どものいる世帯・大学生・留学生・失業者にコロナ禍緊急食料支援を開始
2023年 6月 高校生・若者支援事業として食料支援・IT技術者育成講座を開始

著書

『からっぽの冷蔵庫 見えない日本の子どもの貧困』
(出版社:東京図書出版)

お腹をすかせている子ども達に、笑顔と希望を届けたい。「誰もが食を分かち合える社会」を目指すフードバンク山梨の活動と、そこから見えてきた日本の子どもの貧困の実態や子ども達の思いを伝える。



その他情報

受賞歴

2014年 第1回食品産業もったいない大賞審査委員会委員長賞 受賞
2016年 関東商工会議所連合会長表彰(ベスト・アクション表彰)
あしたのまち・くらしづくり活動賞 振興奨励賞受賞
2016年度グッドデザイン賞 受賞
第22回NHK 関東甲信越 地域放送文化賞 受賞
2017年 第2回賀川豊彦賞 受賞
2018年 あしたのまち・くらしづくり活動賞 主催者賞 受賞
2019年 エクセレントNPO大賞 課題解決力賞 受賞
第50回博報賞 教育活性化部門・文部科学大臣賞 受賞
第13回よみうり子育て応援団大賞選考委員特別賞 受賞
第13回未来を強くする子育てプロジェクト スミセイ未来賞 受賞

メディア掲載

NHK 「クローズアップ現代」「おはよう日本」「ニュースかいどき」
日本テレビ「NEWS ZERO」
フジテレビ「めざまし8」
山梨日日新聞、朝日新聞・読売新聞をはじめとする全国紙など多数。

[フードバンク山梨について]

第2回賀川豊彦賞選考理由より

フードバンク山梨は2008年、「もったいない食品(食品ロス)を福祉に役立てる活動」として、米山けい子氏と仲間たちにより山梨県南アルプス市に設立されました。

日本は戦後経済成長を経て飽食社会になって久しいですが、それに伴い、毎年、未使用の食材や「わけあり」食品が大量に廃棄されてきました。しかし、その陰で、貧富の格差はますます広がり、自らのいのちや健康を支える日々の糧にこと欠く人々が確実に増え、深刻な社会問題になってきています。

フードバンク山梨はそのような人々の「食のセーフティネット」として、その方々に食材をお届けするとともに、その都度、手書きの手紙を添えるなど、その人々の心にも寄り添う細やかな支援活動を展開してこられました。このために多くのボランティアや支援者の輪を広げ、食品会社などさまざまな企業にも参加を呼びかけるとともに、行政や公私立学校とも連携し、いまや、そのトータルな地域ぐるみのフードバンク運動は、「山梨モデル」として、その先駆的な活動は他のフードバンクからも注目されています。フードバンク山梨はまた、「全国フードバンク推進協議会」の事務局として全国運動の推進役を果たすとともに、国や自治体などにも鋭意政策提言をしています。

2024年2月例会報告

書記 寺田喜長

日時 2024年2月6日(火))19:00～
会場 山梨YMCA3階ホール「ベテル」

毎年2月例会はTOF(断食の時)例会とし、クラブでの食事を抜いてその金額相当分を国際協会に献金し国際協会が選定する発展途上国を主たる対象とする地域支援プロジェクトに用いられることを覚えての例会です。前日からの降雪により10cmほど積雪があり急遽何人かがやむなく欠席される事態となりましたが定刻に開会。会長挨拶と今月のゲストのPHD研修生2名の紹介、会員卓話は浅川ワイズにご自身の紹介と父母、家族への感謝、仕事への思い、所属している甲府JCで青少年育成プログラムに取り組んでいる事など話をして頂きました。続いて東日本区への次期役員報告に先立ち興水次期会長より2024～2025年度役員案が提出され承認されました。PHD研修生が出席されたのでささやかな夕食を準備し、日本の伝統的な2月行事の「恵方巻」でディナーとしました。

ゲスト卓話は第39期PHD研修生のインドネシアからのアギー・ラムダ・ブリットさんとミャンマーからのチェリーさんのお二人で、研修目的とそれぞれの国についてお話して頂きました。マギーさんは助産師として日本で保健衛生や栄養管理等を学び、母国での助産院「アギークリニック」を創る夢を持っています。チェリーさんは児童労働に従事している子供達にビルマ語や算数を教えたり、スラムのこどもたちが自立出来る様に手芸づくりの技術を学ぶ場を設けて子供たちのライフスキルを養う活動を続けていきたい、と。それぞれの研修目的で来日、日本各地で研修を実施、1月31日から清藤ワイズ宅にホームステイし、山梨YMCAにて10日間の研修をされています。一年足らずの滞在とは思えない堪能な日本語での卓話に驚きました。PHDについては1月のブリテンにて説明が有りました。記憶にとどめ活動を応援しましょう。お二人の研修生に私たちが教えていただく事が多いにありました。残り少ない研修を終え母国での活動が実りますよう祈ります。

今回もYMCAユースリーダー2名に出席頂き、スキーキャンプ実施等の活動報告と今後の予定について説明があり若い世代の活動状況を知り、今後の共存につなげる機会を持ちました。

いつもありがとう。



第2回あずさ部桑都評議会報告

書記 寺田喜長

日時 2024年2月10日(土)13:00～
会場 高尾の森わくわくビレッジ

2023年～2024年度の第2回評議会が、東京八王子クラブのホストにて高尾の森わくわくビレッジにおいて開催されました。能登半島地震の犠牲者と、東京サンライズクラブ会員でした故小山憲彦ワイズのご冥福をお祈りし黙とうを捧げました。森本あずさ部長の開会点鐘にて開会。ホストクラブによる開会式に続いて出席者数の報告後、部長の評議会成立宣言にて議題審議に入りました。

*審議事項

第一号議案

2024年～2025年度部役員承認の件・・・承認
提案者 次期部長ピーター・マウントフォード

第二号議案

あずさ部SC・Yサ事業助成の件・・・承認
提案者 柳沢CS・Yサ事業主査
(甲府21クラブは「ベビーカーコンサートin甲府」に50,000円の助成)

第三号議案

あずさ部長次次期部長辞退の件・・・承認
提案者 東京西クラブ本川会長
次次期部長を東京武蔵野クラブに今後の部長選出方法の見直しを検討するという条件付きで引き受けて頂くこととした。選出方法の討議を願いたい。

続いて部長活動報告、会計中間報告、事業主査活動報告、クラブ会長活動報告にて評議会終了、閉会式では望月勉監事から監事任期と監事人数の見直しの提案を含めた講評を頂き閉会。グループ討議では「あずさ部部長選出についての話し合い」が7グループに分かれて行われ、検討結果を踏まえて第3号議案の選出方法を再検討していく。

記念撮影後、会場を移し懇親を深めて閉会。マイクロバスにて7名出席、甲府クラブ3名、やまなみクラブ3名が同乗、小澤会長にはいつもドライバーを務めて頂き感謝です。

今後の予定

◆3月◆			
5日(火)	第1例会	19時	
19日(火)	第2例会	18時半	
◆4月◆			
2日(火)	第1例会	19時	
16日(火)	第2例会	18時半	

PHD研修生と共に ～大神宮さんへ～

佐藤 重良

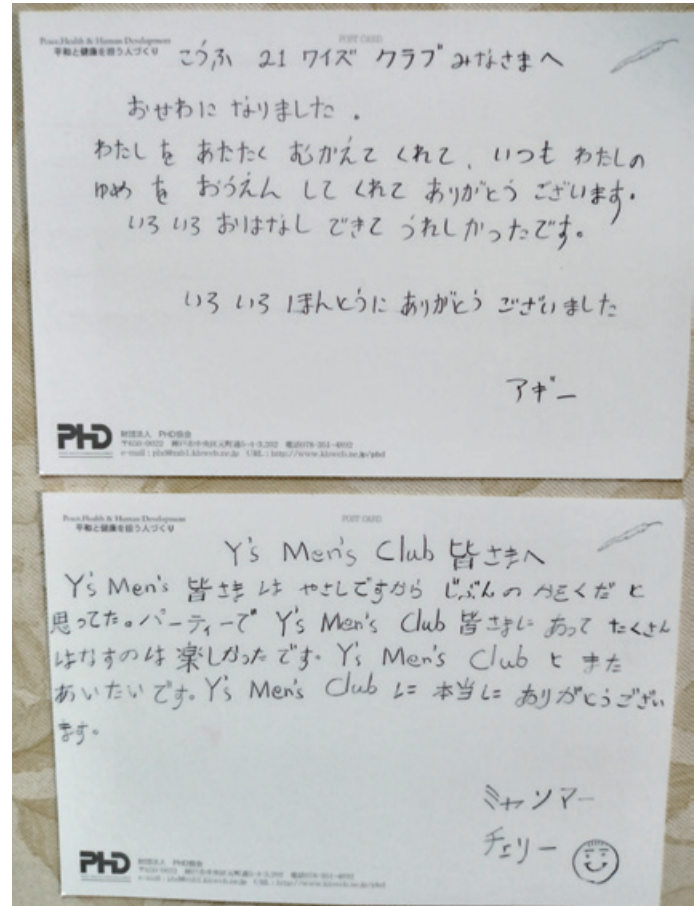
清藤さんが PHD 研修生の 10 日間ホームステイを引受けられる、とお聞きして驚きました。清藤さんは 20 年も前から PHD さんと交流があり、ホームステイも引受けて研修生をサポートしているということ。清藤さんの奥様は、最近歩行が困難になられているとお聞きしております。奥様の介護をしながら、10 日間も女性 2 人のホームステイを受けられるという事を伺い、「私には到底できないことだ。本当にすごいことをやられるんだなあ」と、ただただ敬服するのみでした。

研修生のお二人に（アギーさん・チェリーさん）対して、私にもできることが何かあるはずだと考え、沼田さんをお願いして畑の白菜・大根・ネギ・ほうれん草・ブロッコリー等を清藤さんのお宅に届かせて頂きました。これは清藤さんが料理をしてくださったということです。

2 月 3 日「節分の日」には二人に、日本（山梨）の伝統行事を体験してもらおうと考えて柳町の大神宮さんにお連れしました。アギーさんが質問しました。「これは何のための行事ですか？」

私はみんな災いなく幸せを願い集まるのですよ、と説明しました。風月堂さんのガラガラを早くから予約しておいたのでこれを持ち歩きながら街中を散策しました。この日は寒さがそれほど厳しくなく大勢の若者・子供たちも街に来て節分の行事を楽しんでいました。鬼のお面をかぶったり、鬼の角を頭に載せたりして楽しんでいました。屋台も沢山出店していました。屋台の焼きそばを食べてもらいました。また歩きながら食べられるバナナを串に刺したアイスキャンデーみたいなものも、ご馳走しました。赤鬼青鬼が街に出るころには大神宮さん近くに陣取り鬼たちの出てくるのを待ちました。気が付けばチェリーさんの近くで、突然大きな「うおー」と声がしてびっくりしていました。研修の合間の夜に、山梨の庶民の文化を肌で感じていただこうと考え大神宮

んの鬼たちにも会え 厄払いができたと思います。大雪の体験・雄大な富士山を見ることが出来て、貴重な体験が多かったと思います。アギーさん・チェリーさんこれからも、お国の為、また日本との友好を育み平和な世界を作るため貢献してください。



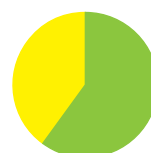
【会計報告】

2024 年 2 月末現在



項目	ニコニコ	バザー	クリスマス	トータル
目標値	250,000	100,000	50,000	400,000
2月の合計	48,886	0	0	48,886
2月末迄累計	279,076	308,529	52,000	639,605
達成率	111.6%	308.5%	104.0%	159.9%

《 2 月例会の出席者》



62%

会員数	42名
第一例会出席者	23名
その他行事参加者	3名
総出席者数	26名
出席率	62%

「日本での百年」を辿って

カナダ・メソジストの歩み [明治・大正編]
グウェン・R. P. ノルマン ●著
後藤 哲夫 ●訳
One Hundred Years In Japan, Part 1: 1873-1923

後藤 哲夫

第2回 エヴァンゲリオン!?

日本に來日したカックランとマクドナルドは、東京と静岡でそれぞれ活動していたが、宣教師の増員の必要性を、本国に向けて再三要請していた。

◆収穫は多いが、働き手が少ない。

伝道者を増やすという問題は解決したでしょうか。私たちは少なくとももう二人をすぐにも必要としています。あなたがたの二人の代理人のうち一人でも欠けるか働けなくなれば、すでに始められている活動はダメージを受けるに違いありません。門戸が開かれたこの国は、すぐにも伝道を開始するのに興味深い場所が至る所にあるのです。

私たちの伝道に長い間期待してきた宣教師の増員はいつなのでしょうか。ぜひ私たちに優れた一組の夫婦を派遣して下さい。伝道の意欲に燃え、この仕事で私たちに助けてくれる方々です。逼迫した財政に苦しんでいる現在の宣教協会に、深く同情しています。しかし、私たちの地に宣教師が増員されなければ、ここでの伝道をあきらめたも同然なのです。私たちの活動の本当の発展などあり得ません。与えられた特権を失うことは必至です。(P46~)

カナダ宣教局は、切迫した資金難の中で、「信頼に足る資質の人物」を懸命に探し続けた。その結果、やっと3年後に、イビーとミーチャム宣教師が、家族を連れて日本に派遣されることになった。当時カナダで学問的にも第一級の人物であった。

イビーは 1976 年来日し、その年のクリスマス・イヴに、寒空の中を幼い長男を町に連れだし、ジフテリアでこの子を亡くしている。翌年にはまだその心の傷が癒えなかったが、7月に山梨県南部からの招きを受けた。その後、甲府の小さな学校で妻と共に働きながら、伝道と教育に励むことになった。

私の理解では妻と日本人助手が主に学校での教育にあたり、私は福音伝道に力を向けることができます。しかし、一人あたりの月謝五〇セント [一円弱] の学校 [英学義塾といった] ですからほんのわずかな給料しかいただけません。私たちは甲府の青年と、棟割りの建物を建て

る計画を協議しました。家賃は一五ドルか、たぶんいくらかそれより多いことでしょう。その家は教会、私たちの住まい、それに日本人助手の宿舎に使われるものです。……問題が片づいたので大いに喜んでいます。年俸二四〇〇ドルの東京大学教授職よりも、ほとんど無報酬に近い甲府行きを選んだことに大変満足しています。もしも主が私たちに健康を与えて下さり、また土地の人々から好意の目を持って迎えらるなら、学校は、大きな働き の器 となることでしょう。大規模な学校の教師におさまる代わりに、私の掌中には小さな、しかし希望にあふれた学校があるのです。私たち家族は家財道具一切を荷造りして、三年の契約で来月 (四月) 甲府に出発いたします。(P68~)

イビーは日本人牧師補と協力して、山梨県下をくまなく福音伝道のために巡回した。ここでいう「福音」とは、ギリシャ語「エウ」(よい)「アンゲリオン」(知らせ) という意味である。では、「よい知らせ」とは何か。讃美歌「主われを愛す」に凝縮されている。「神は我らと共にいます。」ということでもある、と私は考えている。

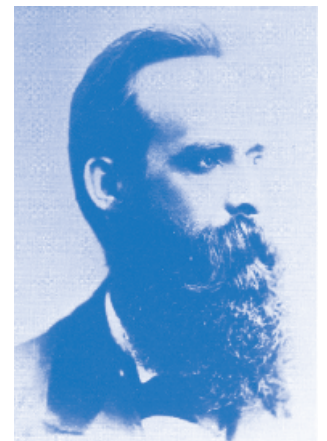
第1回で述べた「同行二人」は、かくして宣教師たちをして「福音」を伝えさせるのである。

甲府の外に宿泊は許可されなかったもので、徒歩、人力車などいろいろな手段を講じて巡回した。しかし、膝のリウマチの痛みのため、自腹をきって馬を買い、騎馬で動き回った。「馬上ゆたかに打ち跨がる身長180センチ・メートルの長身のイビーは、当時山梨名物の一つに数えられた」(『甲府教会百年史』32 P) だそうだ。その後、その蒔かれた種は、いくつかの歴史的变化遷はあったが、7つの教会として現存している。

次号では、ミーチャムについて触れてみたい。



ミーチャム



イビー

ペンリレー

佐藤 利之

いつも大変お世話になっております。

話題の自動車業界について書かせていただこうと思いましたが、闇が深すぎて手に負えないようなので個人的に気になるもので恐縮なのですが、YMCA がイギリスで始まったということで無理くりイギリス王室御用達の称号「ロイヤルワラント」についてです。

王室に最高の製品、サービスの提供者であるとの評価を受けたことを証明する認定証のようなものです。この認定を持つ企業は 850 くらいあるそうです。最近まで認定出来るのはエリザベス女王、エジンバラ公、チャールズ皇太子の 3 人のみでそれぞれに紋章があり認められると掲げることが出来ます。

なんと日本では考えられない文化に、グッ!ときてしまいます。

洋服、靴、小物、お酒等多岐に渡っており有名なブランドではトレンチコートやチェックで有名なバーバリー、長靴のハンター、生地メーカーのジョンストンズなどがあります。

中でも私がこういった事を気になったきっかけはオールドコットンで有名な「バブアー」です。始まりはコットンに油を塗りコーティングさせた漁師の作業着から始まり、雨が多いイギリスの気候ともマッチしモーターサイクル用、狩猟用、乗馬用、フィッシング用などさまざまなモデルが存在します。品格のある中に実用性を重視した無骨で機能的なデザインが魅力でしょうか。年代によってワラントの数が異なり（1974～エジンバラ公の 1 つ、1982～エリザベス女王にも認められて 2 つ、1987～チャールズ皇太子にも認められて 3 つ。それ以降エジンバラ公がお亡くなりになられて減ったりもあります。）ヴィンテージとして男心がくすぐられるポイントかと思います。最近のものはタウンユース向けにベタつきが少なく特有の臭いもなくスタイリッシュなデザインが主流ながら、昔の無骨なベタベタしているジャケットをオイルが抜けてきたらリプルーフ（オイルを足す作業）をして生地が傷ついたら補修して長く愛用していくのが SDGS であり英国紳士の嗜みなのかなあと考えた次第であります。



Simonside
South Shields
Tyne & Wear
NE34 9PD
United Kingdom

J. Barbour & Sons Ltd
Clothing & Accessories

Barbour is an English brand founded in 1894 and based in South Shields, Tyne and Wear. Now operating on a global basis, it sells products including outerwear, clothing, accessories and footwear for men, women and children under the collections Barbour Heritage, Barbour International, Barbour Lifestyle and Barbour Countrywear.

◆YMCA便り◆

～声をとどける。声をうけとめる。～

総主事 中田 純子



今年、学校で把握された「いじめ」の件数は 68 万件、不登校児童に関しては 29 万人と報じられ過去最高となっていることはご存じだと思います。このことは私たち大人が重く受け止めなければならないと強く思います。

全国 YMCA では、毎年 2 月の最終水曜日に「いじめ」について考え行動する「ピンクシャツデー」運動を行っています。山梨でも先月 26 日から 29 日に「ピンクシャツデーウィーク」として、子どもも大人も共に、互いに認め合い、多様性を大切にしよう 人と人のつながりを作るためのさまざまな活動を行い地域で「育てあい、育ちあう」まちづくりを目指し、自分のことも他者のことも大切にできる関係性に支えられた地域社会ーポジティブネットーを山梨に広めるために、放課後等デイサービス、放課後児童クラブの子どもたちが全身全霊で「いじめをなくそう」パレードを行いました。その姿は、多くの人に声を届けたいと心から感じたからです。このこどもたちの平和を訴える声を届けるためには声を受け止める人がいなければなりません。この平和の声の受け止めを甲府市長、甲府市教育長のお二人がしてくださいました。大人が受け止めてくれることで子どもたちはもっと多くの人に伝えたい。知ってほしいと考えます。この連鎖は地域だけでなく山梨県全体に日本全国に世界にと波及していくはずですよ。

ワイズメンの皆様にもご理解いただき、まずは、いじめ件数 68 万件・不登校児童人数 29 万人の減少を目指すために、来年度は協働で平和の声を届ける人として加わっていただきたいと希望いたします。

